



横手弁にひたってほっこり

自宅の耐震工事プラス改修にともない、わが仕事部屋の床に積み重なった書籍の移動を迫られ、年末から年始にかけてはもっぱら“本出し”。結局、段ボール二〇箱分を処分し、書籍は床からはなくなって本棚の中のみ。まさに何十年かたまった垢を洗い流したもので、小さな仕事部屋の空間が広がった。その合間を縫って、気分転換に噂の映画『ボヘミアン・ラブソング』とともに落語の『芝浜』、そして下北沢に秋田県横手市の劇団「かんじき」による劇『結婚の申込み』を見に出かけた▼いずれも強いインパクトを受けたが、『結婚の申込み』は一味違う感慨を覚えた。「四〇歳も間近の土地持ちの家の男・鳶吉が、幼馴染である隣の家の地主の行き遅れの娘・とみえに結婚を申し込みに行く。行き遅れのとみえを気遣う父親・番助は大賛成。昔から二人の結婚を熱望していたと大喜びする。しかし当人同士の思いもよらぬ事態へと展開していく……」のであるが、二転三転しながらもハッピーエンド、二人は結ばれることになる▼抱腹絶倒の名作喜劇であるが、チエーホフによる原作を秋田県北の言葉で翻訳されたものを、南の横手地方の言葉に再翻訳したという。まさに横手弁が“躍動”するのであるが、言葉が盛んに飛び交う一方で、露天風呂にゆつたりとつかっているような心地よさを感じた。劇に先立っては横手出身のCHIHIOさんによる「『CHIHIOなまり』の音魂」あふれるアルトサックスの演奏にも感激。東京の年末の夜、秋田からの温かくも激しい風にすっかりとらわれてしまったかのような気分だ。

(土着菌)